

土壌診断カルテ（記入例）

圃場名：
 採土日：
 次に作る作物：
 土壌の種類：

分析した機関：

分析項目	単位	改良目標（基準値）	今回	前回	判定	対策・施肥への反映
pH（H2O）	—	6.0～6.5	5.6	5.8	低	苦土石灰で矯正（量は分析機関・JAの処方に従う）
EC（電気伝導度）	mS/cm	0.3以下	0.15	0.20	適	基肥の窒素は基準量
可給態リン酸（トルオーグ法）	mg/100g	10～75	85	80	高	リン酸の少ない肥料を選ぶ
交換性石灰（CaO）	mg/100g	県・JAの基準	180	190	低	pHの矯正とあわせて補う
交換性苦土（MgO）	mg/100g	県・JAの基準	30	32	低	苦土を含む石灰資材を選ぶ
交換性加里（K2O）	mg/100g	県・JAの基準	45	40	適	加里は増やさない
CEC（陽イオン交換容量）	meq/100g	12以上	15	15	適	堆肥で保肥力を保つ
塩基飽和度	%	70～90	59	62	低	石灰・苦土で改善
石灰／苦土比	当量比	5～8（目安）	4.3	4.2	低	石灰を多めに補う
苦土／加里比	当量比	2～6（目安）	1.6	1.9	低	苦土を補い、加里は控える
土壌有機物（腐植）	%	3以上	2.5	2.6	低	堆肥を2t/10aほど入れる

- 改良目標（基準値）には、分析結果票や県・JAの土壌診断基準の値を写します。作物・土壌の種類・水田か畑かで変わります。
- 記入例の改良目標は、国の地力増進基本指針（普通畑・灰色低地土などの区分）とJA全農の資料にある目安です。記入例の分析値は架空のものです。
- 土は収穫後、次の耕起・施肥の前に、圃場の対角線上の5か所ほどから作土の深さまで採り、よく混ぜて1つの試料にします。
- 石灰資材や肥料の量は、分析機関・JA・普及センターの処方に従ってください。